

世界に問われる 日本的人種差別 ～「ジャパニーズオンリー」の背景～

サッカー・Jリーグ1部の試合中にチームのサポーターが「JAPANESE ONLY」（ジャパニーズオンリー）という差別的な横断幕を掲げた問題で、制裁措置としてJリーグ史上初の無観客試合が行われたことは記憶に新しいところです。しかし、厳しい制裁が科された一方で、排外的な横断幕を掲げたサポーターの意図や背景について掘り下げられることなく、無観客試合と当該サポーターグループを解散することで「幕引き」が行われた感があります。

世界でも人種差別は社会全体で厳しく責任が問われます。しかし日本の社会では人種差別や外国人嫌悪の言動に対してはまだ責任が問われないでいます。世界と日本の人権問題に対する態度の違いが大きくなっています。

グローバリズムの進行とともに人種差別、外国人嫌悪を煽りたてる勢力が公然と登場し、拡大しています。こうした社会全体の右傾化は世界的に共通する現象であり、中には議会に極右政党が進出している国もあります。極右勢力は、例えば、ヨーロッパではネオナチ、日本では在特会などの活動にみられますが、同時にそれぞれの地域性や歴史的背景によって異なる特徴も持っています。

世界的な共通点はどのようなことか、日本では在特会がなぜ在日コリアンを標的にするのかといった点を、『日本型排外主義』を書かれた樋口直人さんに、「在特会」「外国人参政権」「東アジア地政学」をキーワードに講演していただきます。

日時 : 5月16日(金) 午後6時半～8時半
場所 : エルおおさか 5階 研修室2
(京阪・地下鉄天満橋から徒歩5分)
報告者: 樋口 直人さん(徳島大学教員)
資料代: 500円
共催 : 反差別国際運動日本委員会(IMADR-JC)、
ヒューライツ大阪、コリアNGOセンター、RINK、
神戸外国人救援ネット
協賛 : 人種差別撤廃NGOネットワーク
【お問い合わせ】
【TEL】 06-6910-7103 受付時間: 月～金曜日 14:00～17:00

